



新理事の石原潔氏（中段右）と食品加工現地職員、当会現地代表三浦、同理事高丸和彦氏、ビジターの榎本清武氏

—新米理事として

石原 潔

アーシャ理事

串原食肉加工組合グローバル代表

第九交響曲の鳴り響く年の瀬も近くなりました。天災と原発事故という人災に見舞われて未だ各地で呻きが続いています。深い癒しと御慰めとが与えられますように。

2008年夏に三浦さんからお話を頂き、アーシャ活動の一端に微力な私に関わらせて頂くことになって4年が経過しました。片言のヒンディー語も学習出来ない生来の怠惰に加え、4年間とはいえ合計4ヶ月にも足りない短期滞在では、アーシャの広範な活動の全体像も掴めないのですけれども、この度はまた、皆さんのお仲間に入れて頂き大変光栄です。

以前から牧野先生のお働きは愛農会を通して薄々伺っておりました。その頃はインドは遠い所で、ガンジーやマザーテレサの国という程のことしか知りませんでした。それが、この4年間に鮮烈な体験をさせて頂きました。ソーセージ作りは仕事としてグローバルで30年やって来ましたが、アラハバードにおける実践的な農村リーダー養成事業の一環として、文化と言葉の壁を越えて伝えられるのか、もう一度自分を分解して組み立てる作業でした。この間に三浦ご夫妻をはじめアーシャスタッフ皆さまの魂を注ぎ出すような真摯な活動の様子を傍らに拝見しつつ、ようやく名前と顔の見覚えのある人々の場所として等身大のインドが僅かながら近づいて

きました。アラハバードの皆さんがいつも暖かく迎えて下さることに心から感謝しています。

アーシャの魅力はインド在住のスタッフと日本国内の支援者との往復運動にあります。多岐に亘る活動の一つ「継続教育学部」に来る学生に南アジアの拡がりがあることに驚かされます。ここに日本の若者が共に生活し共に働くと本当に良い経験となるのではと思います。今年の金子さん亀田さんもその良き例です。支援と言うよりも、学びあう関係になると、より協力が深まると思います。この春、東日本大震災の直後に農場主任サントシュ氏が高丸氏や愛農会などを訪問してくれたことも大変有意義でした。アーシャのHPやブログも素晴らしいです。実際の往来を背景に、ネットによって岐阜の山の中にも現地の様子が伝えられてきます。

さて私たちの側からは何を伝えましょうか？福島の実験を踏まえて我が身を正しつつ、アジア諸国に迷惑な原発を輸出する方向を捨て、小さな群れであっても心通う関係の作り方をしたいものです。ご支援下さる皆様もそれぞれに深いつながりをお持ちのことと思います。主の御名が崇められますようにと祈りつつ、いのちを育む「食と農業」を学びの中心に置き、アーシャの良き交わりの輪を広げて行きましょう。